

日時：令和5年2月22日（水）午後3時30分～午後5時

委員：大塚 耕司 委員（大阪公立大学教授）

中西 洋 委員（大阪市立阪南中学校校長）

森田 英嗣 委員（大阪教育大学教授）

森本 哲弘 委員（住吉高校 後援会会長）

篠原 宏明 委員（住吉高校 PTA 会長）

逢坂 昌也 委員（ベネッセコーポレーション）

1. 学校長挨拶（中山玲代校長）

3月2日から英語合宿（1年国際文化科）

6日からアメリカ、コロラド州、NASAに訪問

11日から、イギリスケンブリッジ留学

学校行事も随分と元通りになりつつある。

生徒の進路実現、支援の充実に向けてのご助言よろしく願いいたします。

2. 委員紹介

（大塚委員からの挨拶）

司会進行を大塚委員へ交代

3. 今年度の本校の取り組みと課題等について

1. 令和4年度学校経営計画の進捗状況（学校長）

・学校教育自己診断結果について

担任以外に相談できる←77%台 今後の課題

・会議資料等のペーパーレス化を進めている

探究の時間については総科・国文の両科合同での初めての取り組みをする

3年ぶりに台湾の姉妹校より生徒が来日、次年度は海外研修も企画予定

2. 令和4年度の「教務部の取組み」について

・3学期制に変わった点について

学年教務に負担がかかった

観点別についての評価の仕方について今後効率化を含めて改良していく予定

3. 「国際文化科の取組みについて」

次年度より英語検定受験を勧めていく

LETS 合同発表会に参加、暗唱の部で1位を獲得

授業時間内に外国語講師による文化交流

英語合宿実施

※課題点← 観点別の主体的を評価するための「パフォーマンステスト」は実施に時間がかかる

国際部より

- ・日台交流20周年記念イベントに校長参加。その縁で2023年4月に台湾からの生徒が来校予定
- ・ケンブリッジ研修、無事終了
- ・対面とオンラインのハイブリッド交流を促進
- ・ユネスコスクール活動報告最高評価の「5」を獲得

4. 「総合科学科の取組みについて」

SSH 第3期

課題研究の質の向上、英語での発表、外部の連携強化などの課題について

変化のあったもの

- ・外部連携 → 住高支援ネットワークと定期的につながる
千葉大学、和歌山大学への発表参加 外部受賞数も増加
- ・教員と生徒の課題共有及び評価も改善

依然として課題であるもの

- ・SS3の選択者が少ない
- ・個人の興味関心に根差した課題設定→一定の効果があったのでは

その他、新たな取組み

国際文化科も国際科学発表会に参加、英語力に違いを意識させる大切な機会となった
論文・資料等を外部公開している

5. 「今年度の取組み及び進路結果について」

国公立大学の志願者が飛躍的に伸びた→学年ごとで波がある可能性がある
進学に結び付ける、諦めさせない（担任の指導がかなり影響する）意識を持たせることが大切
国公立の受験者数200名は超えている。前期、中期も両方出願が75%程度いる

6. 「生活指導部の取組み」

遅刻指導の流れ、シートの活用

頭髪指導に関して→染色・脱色の制限を行う（全学年、教員間で指導目的を統一）

社会の一員としてちゃんとしていこうと、しっかり話して自覚させる

自転車マナーについて、交通安全講習会・防犯について（3年ぶり）

自転車で校内から飛び出せないしくみを考える

「自治会の取組みについて」

- ・学年別行事は各学年自治会の教員中心に動いている
- ・体育祭実行委員会を立ち上げ、来年度のルールを今年度中に決定
- ・学園祭に来年度から3年生も参加
- ・体育祭、来年度コロナの制限は考えていない（保護者も参観できる）

7. 「令和5年度学校経営計画（案）について」

探究活動を通じて柔軟な発想と探究心を育成したい
両学科がともに取り組む課題研究を進める
生徒が自らマナーについて考える機会を設ける
今後府教委の助言により若干改定をする
※経営計画（案）について委員の承認を得る

4. 質疑、協議

委員 国際交流、オンライン、対面の良さはいかがか

学校 生徒は対面を望んでいると感じる

ラオスの8回は同じ人との交流なので回が進むにつれて良好な関係が築けた

委員 S S H卒業後の進路の追跡について

学校 大体どの学校も13%程度 有効な手法として卒業生を住高支援ネットワークの若年層を増やし
課題研究の支援を行ってもらう（同窓会の声掛け、会報に載せるなど）

委員 自治会の新しい行事の立ち上げについては何があるのか

学校 以前実施していた部活動対抗マラソン大会（万代池公園）を行いたかったが、交通の面で実現できず
何か変わるものがまだ浮かばず、自治会の生徒の負担を考えると今あるものを充実させた方が良いのでは

委員 ・住高探究フェスティバルについて

抽選で質問をする人を決めることについて 当たらない人もいて、偏りがあるのでは
関わりたくないと思っている生徒が置いてきぼりにならないような工夫をしてほしい

・勉強、運動についていけない生徒が置いてきぼりにならないように他に意欲がわくような取り組みがあれば良いと感じる。そういった生徒にも目を向けてあげてほしい

学校 質疑応答、イベントで、質問をつくる力より全体の前で発表する体験をつむことが大切

つまずきに気づくことが大切、定期的なアセスメントの仕組みづくりが重要

つまずきの見える化、その波及作業が大切

委員 生徒指導について、以前議論した内容を今後の方向性として打ち出しているのが素晴らしい

成果が見えてくるはず、子供たち自身が自覚していく

自転車マナーも信号をしっかり守っている様子が見受けられる

学校 校内で話し合う中でも意見の分かれるところ。理想は捨てたくない。日々向き合っている担任に負担をかけることもあるが、今後どのような頭髪指導がなされていくのか、しっかり見ていきたい

委員 学校教育自己診断について

S S H、ユネスコなどその実績に感銘を受けるが、見える成果を伸ばすと同時にそもそもの所を深めていくことが大切

例 対話を重視した生徒指導 そもそも学びとは何なのか 学校って必要なのか

両方が問われるのが本来の学校の姿なのではないか

問いの側面から置いてけぼりにならないように

この疑問って出して良いのかな、と生徒が迷わないように。

年度ごとに変化していくアセスメントの仕組み、評価というのはかなりの資源の投入が必要だが、落としどころをつくる必要がある

スクールミッションと5つのつきたい力の関係性がわかりにくい→ 図示された方が良い

校長 文言を変えたのは、生徒を見て、教員の生徒を育てたいという姿勢に則したものにするため
図示はありがたいアドバイス

これをするからこの力がつく、だからこうする、とわかりやすいように掘り下げる必要がある
学校経営計画で、もしくは別の場で反映させて頂く

委員 自主自律と、生徒に寄り添う精神が反響 先輩の発表をきくことなど、これから良い発展を感じる
模試について、生徒に判断させる、やることをきっちりさせる
継続が大切、対外的にも出せたらもっと良いと思う

委員 ウクライナの戦争関連で、そういった指導は

学校 国際部で、ウクライナ大使館勤務の方を迎えた講演を北畠会館で行った。

ディベートの決勝テーマ、エネルギー依存について日本がどれだけロシアに依存しているかを生徒たちが
知ることとなった。

委員 国公立の中後期出願、75%はすごいこと、信頼関係ができていないと出来ない

学校 担任団のベクトルが非常に一致していた

進路指導をする中で、生徒と対話することで気づかせることが大事

教員と生徒の距離が近い学年は教育大の志望者が増える傾向がある、連携している

次年度の開催日程 令和5年度3月末または4月に詳細を連絡

1回 6月29日(木)

2回 10月26日(木)

3回 2月22日(木)

7. 校長謝辞